

自然体験活動を通した 環境教育プログラムの実践



国立若狭湾青少年自然の家
企画指導専門職 小林 祥之



1. はじめに

国立若狭湾青少年自然の家は、リアス海岸特有の美しく雄大な**若狭湾**が広がり、**山**にはクロマツやコナラ、ヤマザクラ、ヤブツバキなどが群生している。眼下に広がる海には手つかずの自然の**沢**を通して栄養を蓄えた水が流れ込み、ホンダワラ科の海藻の群落や海中林が多く見られ、それらを住処にする生物も多く生息している。この好条件を生かし、当施設では、カッターやスノーケリング、ハイキングなど海や山の自然体験活動を提供している。

今回は、このような特徴的な若狭湾の立地を生かした自然体験活動を通して、青少年がどのように成長しているかを評価した実践研究の結果の一部と、その結果を鑑みて開発した環境教育プログラムを紹介したい。



財団法人日本水路協会・株式会社武揚堂 1/100,000





2. プログラム開発のための教育事業と研究

当施設では、若狭湾を取り巻く自然や文化、歴史、産業に着目し、持続可能な地域づくりに寄与し、自立した青少年を育成することを目的として、

「豊かな海を守るため、身近な私たちの生活の中から改善していく方法と一緒に考えるプログラムを開発する。」

という教育テーマを設定した。

このテーマのもと、プログラム開発・拡充を進め、令和3～5年度に幼児、小学校低学年、小学校高学年から中学生、高校生の各年代を対象に教育事業を行った。令和3、4年度の各事業では、右の3つの育成したい資質・能力をベースに、IKR評定用紙(簡易版)を用いて事業前後の参加者の変容を調査・分析した。



- 探究的な興味関心の日常化
(学びに向かう力・人間性)
- 自己実現・自己成長
(知識・技能)
- 課題に向き合う力
(思考力・判断力・表現力)



2. プログラム開発のための教育事業と研究

令和3、4年度の調査結果については、右の2次元コードより当施設HPに掲載している報告書「特色あるプログラムの開発・拡充と施設の教育力向上に関わる調査研究」を参照してもらいたい。

令和3年度の調査結果

2022年(令和4年)実践研究報告書

令和4年度の調査結果

2024年(令和6年)実践研究報告書



当施設HP 実践研究報告書のページ

令和5年度では、これまで行った各事業から、**小学校低年齢期**に焦点を絞り、低年齢期のスノーケリング・海遊びの研修支援の充実と体験活動の効果を評価することとした。





3. 当事業の概要

【事業名】

ぼくらは勇者だ！わかさわんキッズ冒険隊

【目的】

- ・若狭湾での自然観察を通して、海と山のつながりについて考える。
- ・自然の中でさまざまなチャレンジをすることで、自分にできることや友達の良さを見つける。

【日時】

令和5年7月22日(土)～23日(日)
(1泊2日)

【参加者】

	男	女	合計
小学1年	4名	4名	8名
小学2年	4名	4名	8名
小学3年	4名	4名	8名
合計	12名	12名	24名

【主なプログラム】

	1日目	2日目
AM	開会式 アイスブレイク	海の中をのぞいてみよう (スノーケリング)
PM	海と山のたんけん (生き物観察)	ふりかえり 閉会式
夜	海と山の生き物の お話	



夜の「海と山の生き物のお話」をする講師 白井氏



3. 当事業の概要

【講師・サポート体制】

海の生き物についての知識やスノーケリングの技術を身につけ、深めるために、白井芳弘氏(名古屋ECO動物海洋専門学校講師)に講師を依頼した。

また、普段から白井氏の下で、海活動の技術や知識を学んでいる名古屋ECO動物海洋専門学校の学生にも、海活動のサポート役として依頼した。



【プログラムデザインのポイント】

- ・自分の手で実際に生き物に触れる体験の機会を意図的に設け、興味・関心を高める活動とした。
- ・山(沢)と海の様子や採取した生き物を一人ひとりそれぞれの言葉でまとめる「わかさわんはっけんノート」を用いた。
- ・学んだことや思い出を振り返ることができるよう、見つけた生き物を水槽で展示することとした。



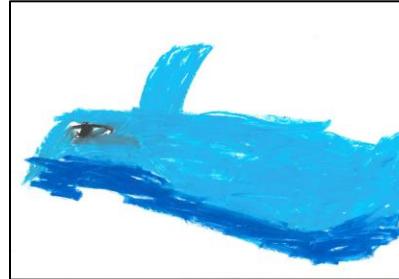


4. 調査研究について

【調査方法】

①連想法により描かれる絵の変化

参加者に事前事後で「海」をイメージした絵を描くことから参加者の変容について調査・分析した。分析は、当施設職員および白井氏が実際に絵をみたコメントをまとめた。



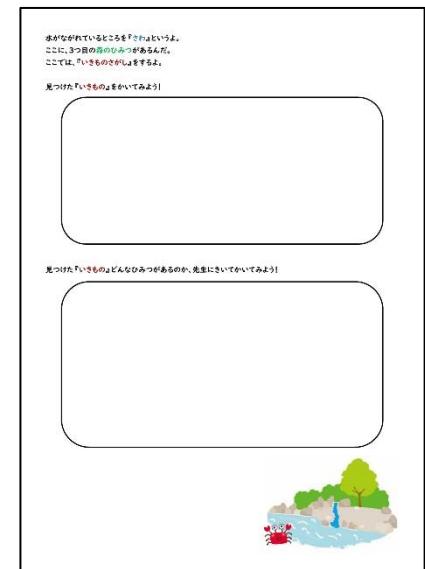
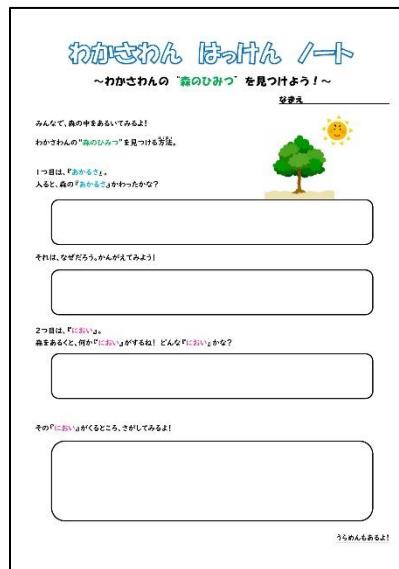
事業前のAさんの絵



事業後のAさんの絵

②「わかさわん はっけんノート」の記述

「わかさわんはっけんノート」の記述から、森と海のつながりの理解度を調査・分析した。



③記述式アンケートによる評価

事業最終日に事業で学んだことについて記述したものから調査・分析した。



4. 調査研究について

【調査結果および考察】

①連想法による言語活動・描かれる絵の変化

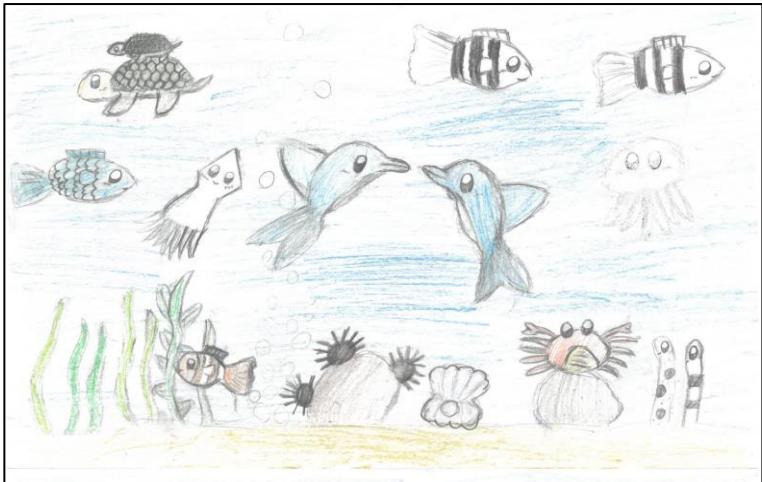
自然の家職員の評価

全体的に、事後の絵にはヒトデやウニが描かれていることが多く、事業で触れた生き物が表現される傾向にあった。

講師(白井氏)の評価

【Cさんの絵(右の絵)について】

海底に、緑色のアオサと紅色のマクサのような海藻が描かれている。活動エリアには、緑藻・紅藻・褐藻が生えており、海藻の色をよくみている。右端にアオウミウシが描かれている。鰓が赤いのでよく観察している。この絵のポイントは、環境をしっかりとらえていることである。岩の表面に付着生物がつき、岩の色も一様ではない。ウニは岩の隙間に生息しヒトデは岩の上にいる。生物の生息状況がわかる絵が描かれている。



事業前のCさんの絵



事業後のCさんの絵



4. 調査研究について

②「わかさわん はっけんノート」の記述

探究的興味関心の日常化

「海に入って魚を見たこと」や「沢にもたくさんの生き物がいた」などの声が多かったことから、事業の中心である海・沢活動を通して自然への関心が高まったと考える。また、山と海のつながりを実感できるプログラムをデザインし、沢・海遊び→生き物のお話→スノーケリングと段階を踏むことにより、児童の沢や海の生き物に対する興味・関心も段階的に引き上げることができたと考える。

自己実現・自己成長

これまでの実体験の中で触れる機会の少なかったであろう生き物に対して、その方法を知ることで、生き物に直接肌で触れる体験ができたと考える。講師やスタッフ、ボランティア学生のサポートがその体験機会を提供することにつながった。

- ・海の中でヒトデを探すのを頑張りました。
- ・海の生き物と触れ合うのが楽しかった。
- ・沢にいる生き物を捕まえるのを頑張った。
- ・スノーケリングで知らない生き物が分かりました。
- ・海遊びやスノーケリングで魚がいっぱい見れた。
- ・海と山はつながっていてすごい。

- ・生きものをいっぱい捕まえられるようになった。
- ・ウニやヒトデを触れるようになった
- ・初めての友達と仲良くなれた。
- ・みんなで協力して部屋をきれいにした。



5. 開発した環境プログラム

(1) プログラムの概要

これまでの実践研究の成果を踏まえ、若狭湾の山(沢)

と海の自然環境を生かした「トビーのわかさわん探検隊」を開発し、令和5年度から提供している。

このプログラムは、若狭湾にある森・沢・海のフィールド(右の図)で五感を使いながら、グループで協力し6つのミッションクリア(下の図)を目指し、山(沢)と海のつながりや自然への関心を高めるプログラムである。



(ミッション例)

ミッション③
沢の水の中を見てみよう
場所：岩の沢ログハウスの沢

沢の水は栄養が豊富だよ
その証拠に「ヨコエビ」がいるんだ！
指導者からバットを受け取り、
ヨコエビやそのほかの生き物、
ヨコエビが食べた落ち葉などを探して、
見つけた生き物をメモしよう。

見つけた物の名前や特徴、
絵をかいてもイイよ！

ヨコエビ (巨大サイズ) ヨコエビ (実際のサイズ) ヨコエビが食べた落ち葉

ミッション④
沢の水は海にどのように流れる？
場所：赤石の浜

沢の水と海の水にはちがいがあるよ！
下の図のように
海の水がはいったペットボトルに
沢の水をそっと入れてみよう。
沢の水はどんな風に流れるかな？

【図】

見つけた物の名前や特徴、
絵をかいてもイイよ！

ヨコエビ (巨大サイズ) ヨコエビ (実際のサイズ) ヨコエビが食べた落ち葉

ミッション⑥
海と森の美術館をつくろう
場所：大浜

さいごのミッションです！
さいしょに書いた完成イメージ図をもとに、
海(浜)や森でひろったモノを使って、
班で1つの作品をつくります！
つくった作品のタイトルを指導者に
あててもらえたたらOKだよ。

海と森の美術館

指導者が正解できるように
よりリアルに、よりこまかく
工夫してつくるとイイよ！！



5. 開発した環境プログラム

(2) プログラムを体験した教員等指導者からの感想

- ・海と山の自然を同時に体験できるプログラムとなっており、楽しく活動できた。
- ・生き物を見つけたり、自然ならではの魅力を感じた。
- ・淡水と海水を混ぜた時の水の動き方を初めて見て、不思議そうに見入っていた。

五感を最大限に使って、木や海水、生き物などの自然に触れながら、チャレンジすること、初めて見る光景、いつもと違った視点で考える経験が、子どもたちの興味・関心を高めていることがうかがえる。そして、このプログラムが指導者にとっても、「なんで？」と子どもたちと一緒に“自然の中にある不思議”を考える機会となり、環境教育への指導の一助となると考えている。



こちらの2次元コードから、当施設HPで紹介している

- ・活動プログラムシート
- ・ミッションマップ
- ・ワークシート(子ども用・指導者用)をご参照ください。



6. 他のプログラムと組み合わせて

この「トビーのわかさわん探検隊」は、半日の活動プログラムである。この活動の前後に、**スノーケリングやビーチコーミングなどの海活動を組み合わせることで、ミクロからマクロに(マクロからミクロに)、山(沢)と海のつながりを深く学び合うことで、より一層の効果が期待できる。**

豊かな森があるからこそ、海が豊かであること。
沢が森と海をつなげる大切な役割であること。

若狭湾の特徴的な立地環境ならでは特色あるプログラムを多くの方々に体験してほしい。

計画の例

	1日目	2日目
AM	入所式	スノーケリング
PM	トビーのわかさわん探検隊	ふりかえり閉会式
夜	キャンプファイヤー	

